

(235)

合併症や感染症のリスクを高める「体力の低下」を食い止めるためには適切な食事が欠かせない。山梨県立中央病院栄養管理科では、所属する管理栄養士が患者とのコミュニケーション

合った病院食の管理を担っている。平均入院期間が12〜13日と短い急性期病院のため、治療効果上がるように病院食のタンパク質を増やす工夫をしている。病気への不安、治療の副

となる部分。患者の栄養状態を落とさずに退院につながる（金井さん）ことを心掛けているという。近年は、手術を必要とするがん患者を対象にした栄養指導に力を入れている。

がきっかけだったという。一般の外來受診をしている患者の栄養指導は、糖尿病や腎臓病など食事制限を必要とするケースが一般的だが、同院は低栄養のリスクのある患者などでも医師

管理栄養士患者と向き合う

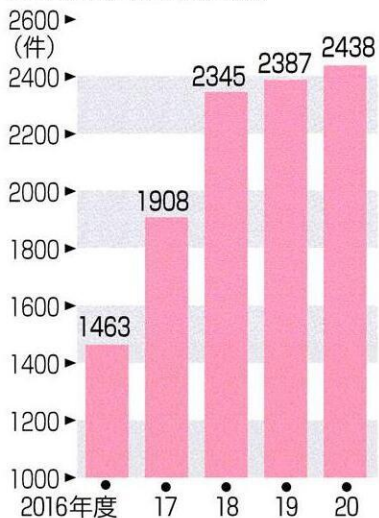
適切な食事治療の土台に

作用などから食が細くなる患者もおり、ベッドサイドに足を運び、直接患者とともに食事について考えることも管理栄養士の大切な役割だ。「食事は治療の土台

手術前後と、退院後の計3回、管理栄養士が食事の重要性を伝える取り組みを展開。医師から「術後の体力低下による合併症に困っている」と相談を受けたこととなった。

を積極的に取りながら、治療に向けた体作りを支えている。金井敬子さんは「食生活改善に向けて継続して取り組める内容を患者と一緒に考えたい」と話す。

山梨県立中央病院栄養管理科 栄養指導(相談)実績



現在、在宅療養で通院によるがん化学療法治療を受ける患者も対象に広げようという準備を進めている。適切な栄養指導により、化学療法を受ける患者の体重減少が抑えられたとする報告もある。積極的にアプローチしていきたい」と展望を

高度で安全安心な医療提供体制の構築には、さまざまな専門職の存在が欠かせない。県立中央病院で医療を支えるスペシャリストを紹介する。

◇ 第2、4木曜日に掲載



金井敬子
管理栄養士